



研修部

【担当責任者】
西宗寺/住職 毛利俊英

研修部は、常例研修については
禿河暁師(本通寺若院)、僧侶研修
については湯浅勝頼師(観應寺住
職)の両名を中心に研修体制を整
えてまいります。なお、令和二年の
常例研修は、新型コロナウイルス防
止の観点から、開催を見送ります。

新型コロナウイルスの感染拡大は社会に多
大な影響を与え、一般の企業では、
Web研修や動画配信など、いわゆ
るオンライン型の研修に積極的に
切り替えています。このような方
向性が、今後ますます広がり一般
的になることを考えると、小倉組
の研修もオンライン型の法座に対
応する時期にきているように思
います。そうすれば、将来会場に多
数が集って聴聞するという法座形
態を堅持しつつ、新たに家庭や高
齢者施設にも法話を配信するこ
とが可能となり、聴聞の場も広がる
ことになるでしょう。

一方、オンラインを用いた研修

は、受講者にとって一方向で受動
的になり、講師やほかの参加者
とのコミュニケーションが取りづら
いと言う難点もあります。人との
関わりの中で法を味わい広げてゆ
くことが仏教の基本であれば、そ
の原点を常に堅持しなければなり
ません。研修部では、感染の収束後
には従来の対面型の研修も行える
ように、並行して準備を進めてい
く予定です。



「成道会」

【小倉組 研修部 部長】

西宗寺/住職 毛利俊英

今からおよそ二千五百年
前の十二月八日、ブツダは
悟りをひらかれ、自らの生
きる道を完成させました。



「成道会」を営む大切な日と
なっています。

経典によると、ブツダは、
成道の前日の夕方、菩提樹
の下に草を敷き、静かに瞑
想に入りました。夜が更け
るに従って瞑想は深まり、
真夜中には自らの心の最深
部に至っていました。その
ときのブツダの心象は、次
のようなものであったと言
われています。

心の最深部に潜むマール
(悪魔)は幻惑の術を用い、
武器を持った兵士に攻撃さ
せたり、炎を吐く毒蛇を来
襲させたり、或いは艶めか
しい姿の娘を再現して誘惑

しようと試みます。ブツダ
の心に恐怖・不安・愛欲の心
を起し、瞑想を中断させ
ようとしたのです。

このマールとは人間の深
層意識に深く根ざす自我意
識(我執)を意味し、これこ
そが憎悪や愛欲などの様々
な煩惱を生じさせる根源な
のです。

ブツダは、心の最深部で
激しく動き回るマールを静
かに見つめながら、そっと
右手の指で大地を触れまし
た(触地印)。そのときに(私
の真の拠り所は、マールな
る自我意識ではない。この
生存を支える母なる大地

【雅楽クラブ】担当法中並びに講師紹介



上段左より、正行寺/西村敦喜、西福寺/黒田拱心、萬徳寺/徳永龍丸、教養寺/池尻正道、永楽寺/坂本一
下段左より、安楽寺/仁保依正、善龍寺/柳田彰道、長玄寺/谷川翔



慈光寺/柳原 浩文 浄念寺/村上 順道 永明寺/松崎 智海 観應寺/湯浅 勝頼

雅楽クラブのこれまでの活動

- 2008年 小倉組若婦人会で「龍笛を吹こう!」から始まる。
- 2010年 東北大地震の前の年、10月に小倉組「親鸞聖人750回
大遠忌お待ち受け法要」を永照寺様にて勤修。雅楽で参加。
- 2011年 小倉組雅楽クラブ発足。(今から9年前)
- 2014年 永照寺様の住職継職法要に出勤。
善行寺様の住職継職法要に出勤。
- 2018年 八幡東区「レディスやはた」能舞台上で発表会。
- 2017・2018年 永明寺様で法要・発表会。
- 2012、2014年～
2016、2019年 小倉組「親鸞のつどい」で出勤。
- 2018・2019年 善龍寺様の秋彼岸法要で、法要・発表会。
- 2019年 西蓮寺様で法要・発表会。

♪～練習風景～♪



親鸞聖人の「煩惱を断ぜ
ずして涅槃を得る(不断煩
悩得涅槃(止信偈))」も、こ
のブツダの体験と軌を一
にするものといつてよいで
しょう。



▲西宗寺本堂壁画「降魔成道図」

雅楽にまつわる楽屋話



雅楽って日本古来の音楽ですよね？



雅楽は外国から伝来した音楽なのです。インドから中国、あるいは中近東を渡り、朝鮮半島を経由して日本に仏教と共に入ってきたと言われています。その外来の音楽が日本古来の音楽と融合し、日本人好みに完成されたのが今演奏されている雅楽で、以来1200年ほど経つそうですよ。



どんな楽器を演奏するのですか？



演奏の形態として、三管三鼓の形態と、三管三鼓に琴・琵琶が入る管絃があります。三管は、鳳笙(ほうしょう)、篳篥(ひちりき)、龍笛(りゅうてき)の三管で、三鼓は、楽太鼓(がくだいこ)、鞆鼓(かっこ)、鉦鼓(しょうこ)の三鼓です。



鳳笙 ほうしょう



笙の講師 / 坂本 一 師 池尻 正道 師

法要時、1番にやってくるのが鳳笙を演奏する方々です(笙やさんと呼んでいます)。到着すると、炭の火をおこし火鉢を用意します。冬は火鉢を囲んで他の管の方も寄って来るのですが、夏は人気の無いのが笙やさんです。冗談ですよ。火鉢は、笙を暖め、音が鳴りやすくなるための大切なものです。今は、電気コンロで代用ができるようになりましたが…。鳳凰が羽を休めている形に似ていることから鳳の笙で、鳳笙と言われます。

ヤボなことを…
頭(かしら)という部分に十七本の竹が差し込まれており、その内十五本にリードが付付けられています。竹の一本一本に名前が付付けられていて、リードが付付けられていない竹には「也」「毛」と付けられ、楽曲の役に立たないことから「ヤボなこととするなよ!」という言葉が出来たと聞いています。曲が始まると、終わりまで音を鳴り続けさせるよう、楽器から口を離すことがありません。その音色は、「天から差し込む光を表す」と言われます。

篳篥 ひちりき



篳篥の講師 / 徳永 龍丸 師

お茶を一杯…



次にやってくるのが篳篥を演奏する方々です。到着すると、「お茶を一杯ください」と。よほど喉が渇いているのかと思いきや、篳篥の舌(リード)を出してお茶の中へ。舌は舌でも渇いているのは篳篥の舌でした。渇いた舌を潤し、良い音色を響かせる為なくてはならないお茶でした。曲の主旋律を奏でます。

メリハリ…
いろいろな奏法の中に、同じ手(抑える穴は変えず)で音を下げる「メリ」、逆に音を上げ気味に張っていく「ハリ」という奏法があります。このメリハリという言葉は、この楽器の奏法から出ています。曲も人生も「メリハリ」が効いているほうがいいですね。その音色は、「地(人)を表す」と言われます。

龍笛 りゅうてき



龍笛の講師(左より) / 西村 敬喜 師 黒田 撰心 師 谷川 翔 師

最後にやってくるのが龍笛を演奏する方々です。龍笛は、火鉢もお茶もいりません。管1本で勝負です。息を調べ、たっぷりの息で曲の始めを1人で吹きます。これを「音頭」と言います。「音頭取り」という言葉がありますが、これは最初に声をあげ、みんなをまとめ先導する人を言います。この龍笛の音頭からきています。筆篳の旋律に合わせて、装飾音を吹いて旋律に厚みを加えます。その音色は、「天と地の間を結ぶ龍の声を表す」と言われます。

楽太鼓 がくだいこ



楽太鼓

楽太鼓は、その上に火焰の彫刻が付いているので火焰太鼓と言うこともあります。和太鼓と違って平べったい形状で、片面を「打ち」ます。面に彩色(例えば唐獅子や龍、三つ巴などの彩色)を施すこともあります。打ち方は、左手に「雌撥(めばち)」、右手に「雄撥(おぼち)」を持ち、曲の拍子に合わせて、雌撥をやさしく「ズン」、雄撥を強く「ドウ」と打ちます。

鞆鼓 かっこ

鞆鼓は、鼓(つづみ)を横に据え置いた形で、両側面を引っ掻くように奏します。「掻く」という奏し方です。奏楽には前に立って指揮をする指揮者がいません。鞆鼓の奏者が楽頭となって、様々な指揮を執ります。演奏開始の合図や、曲のスピードの調整、曲を止める時の合図を、動作や撥で行います。掻き方は、右の撥で「正(しょう)」、左の撥でトレモロのように「来(らい)」、両方の撥で「諸来(もろらい)」という掻き方をします。



鞆鼓

鉦鼓 しょうこ



鉦鼓

鉦鼓は、鼓とは言っても唯一の金属を使った楽器です。金属のお皿の内側を「擦る」ように奏します。太鼓同様、曲の拍子で奏します。大勢で演奏するときは、この鉦鼓の音がよく響き、とても頼りになります。打ち物が入ることによって、曲全体が引き締まり、また心地よく雅楽を体感することが出来ます。

さあ、法要が始まりますよ!!

打ち合わせ…

皆が集まると、当日の打ち合わせが始まります。法要に合わせた「楽目(がくもく)」を決め、各管の主管と打ち物の配役を決めます。主管は、その管のリーダーを務める人のことです。そうそう、「打ち合わせ」という言葉は、三鼓を間違えずに打ち合わせることを話し合うことから、大切な内容を決めることを「打ち合わせ」と言うようになったとか。これも雅楽用語なのです。

